

令和5年度 新規採用者等企業研修より

『自分らしく生きる』

～ 安心して働くことができる職場づくり・まちづくり ～

四国中央市では、企業に於いても人権・同和教育の研修を実施しています。今年度も、新規採用者等企業研修を行いました。職場で安心して働けるということは、生産性を高めることにもつながります。

人権・同和教育は、心の教育、自分も人も大切にできる教育です。誰もが『自分らしく生きる』ためにはどうあればいいのでしょうか。大まかな内容を紹介します。

被差別の立場に立たされている方が、「差別を受けた覚えはないが、出身地からは敢えて離れて触れないように生活してきた。でも、結婚したい相手ができるとき、後から嫌な思いをさせたくないし、したくないという思いで相手の方やご家族に打ち明けた。学習会に

も参加したことはなかったが、子どもが生まれてからは、ちゃんと学習しておかないと、という思いで参加するようになった。」と話されました。本来なら、このことは、部落差別について正しく理解するための教育を怠ってきた国の責任、そして差別を残してきた周りの人間、私達の意識や行動の問題なのです。

また、障がいがある子ども達と交流した経験から、彼らは私達が思っているように「障害がある」とは思っていないように見えました。それは、彼らを『あるがまま』に受け入れる特別支援学校の環境があり、安心して活動できていたからでした。障がいがあることが問題ではなく、周りの人の受け止め方、意識の在り方が重要なので

す。ある自閉症のお子さんがいらっしゃるお母さんは、「色んな特性をもつ子がいるということを知ってほしい、関心をもってほしい」という願いを持って、どこへ行くのも一緒にということを意識されて出かけていました。

また、職場においてパワハラがなくならないのは、加害者がハラメントということが分かっている、被害者は「NO」と言いにくいからです。一番重要なのは周囲の人達です。見て見ぬふりをせず、行動を起こすことができれば変わってきます。

現在、様々な人権問題があります。周りの人間がそのことに意識



を向ける、関心をもつということが、誰にとっても安心して働くことができる職場づくりを実現することに繋がるのではないかと考えます。

人は仕事をする中で、人との関わりの中で成長することができません。人との関係を築くための第一歩はあいさつです。あいさつは、相手を大切にしている気持ちの表れです。マナーの本質は、人を敬う心、思いやりの心を持ち、それを言葉や態度に表すことです。相手によつて態度を変えることなく、誰に対しても同じでありたいものです。

職場で働く一人ひとりが環境をつくる担い手なのです。そのためにもEQ（心の知能指数・人間力）を伸ばすことを意識することが大切です。本市では、心を育てるために『5つの目標』を推進しています。（①あいさつをする ②「はい」の返事 ③はきものをそろえる ④人の話を聴く ⑤自分の意見を伝える）EQを高めるには特に『聴く』こと——相手への興味、

関心をもつて、目を見て等、聴く姿勢を意識することが重要です。これらのことを意識して実践することでお互いを認め合い、受け入れあう関係性が生まれ、自分自身を振り返ることもできます。

小さな積み重ねですが、その意識が職場に浸透すると気持ちよく働ける職場になり、まち全体に広がっていくと『誰にとっても住みやすいまち』になっていくのではないのでしょうか。

受講者の感想

○ 部落差別、障がい者差別等の差別を自分自身ではしているつもりはありませんでしたが、無意識のうちに人を傷付けているのかも知れないと本日の講演の中で気付かされました。無関心であることは一見何の問題もないように思ってしまうですが、そんなことはなく、差別を知らず知らずの内に助長してしまっ

ていると改めて感じました。

これからの業務・生活に今日学んだことをしっかり活かしていきたいと思いました。

○ 人権・同和教育と聞くと固いイメージで、「また、昔の話では」と感じてしまう部分がありました。特に部落差別の話などは、小、中学校の授業で習った内容で止まっており、知識、意識のアップデートが出来ていませんでした。

近年ではLGBTQ等の問題が度々ニュースになりますが、差別とまで認識しておらず、関心もありませんでした。今回の研修会で、中身は違うものの、同様に差別につながる問題だと認識を改めることができました。

社内でもハラスメント防止に努めています。必要な措置がなされているか自分自身で確認しようと思います。

○ 私は関西から出てきたばかりなので部落差別のことは初めて聞き驚きました。人権教育で学

ぶ内容も地域で異なることがあるのだと知るいい機会になりました。

障がいのある子ども達との出合いの話が印象に残りました。私も学生時代に小学校の特別支援クラスのボランティアに週一回行っていたのでとても共感することができました。障がいがある方々に偏見を持って接してしまうと、障がいのある方々の可能性を引き出しきれないと思うので、誰に対しても理解しようとし、受け入れることが大切だと学ぶことができました。

また、IQは知っていても、EQという言葉は聞いたことがなかったもので、EQを高めていこうと思いましたが、そのために、当たり前だけど、誰もができていないあいさつや返事、はきものをそろえる、人の話を聴く、自分の意見を伝える、この5つを大切にしていこうと思えます。この地域に住んでいるからこそ、部落差別についても学びを深めようと思えます。



○ 話を聞いて、私自身知らず知らずのうちに、「人権感覚」が鈍っていることに気付かされました。日々の仕事の中で、忙しさを言い訳に、部下、同僚に対する興味、関心、気遣い等を疎かにする傾向が自分にあつたように思います。総務部門の管理者として、労務管理や人事管理、採用活動等「人権」に深く関わる仕事をする者として、自分自身の「人権感覚」の鈍りを反省して速やかに修正して取り組みたいと考えます。